

令和2年7月2日
全学内部質保証委員会決定
令和3年5月19日
全学教育内部質保証委員会一部改正

工学部機械工学科 教育の質保証ガイドライン

工学部機械工学科では、当該学部学科での教育プログラムにもとづいて修得した知識、技能ならびに態度の評価を以下の通り行います。また、教育プログラムの内容、授業の方法が適切に実行されているかを以下の通り検証します。

1. 評価の内容と方法

(内容)

講義科目では、知識とその応用力を主として評価します。

実験・演習・実技科目では、知識とその応用力を評価します。

卒業研究・論文科目：卒業研究について、多面的思考力、技術者倫理、コミュニケーション能力、数学と自然科学の知識、機械工学の知識と応用力、デザイン能力、自主的・継続的学習能力、計画・実行能力、チームワーク能力について評価します。また卒業研究発表において、内容、視覚資料、態度、質疑応答を評価します。

(方法)

知識とその応用力については筆記試験や課題レポート等により評価します。また科目によっては外部試験（TOEIC、TOEFL等）も評価に活用します。その他の能力は実習現場評価（レポート等）で評価します。

2. 評価の基準

筆記試験を行える場合は、試験の点数を達成度とします。筆記試験を行えない場合は、達成度評価のための評価方法を用いて評価します。評価方法については可能な限り公表します。

科目の成績は、「秀」「優」「良」「可」「不可」で表記され、「秀」「優」「良」「可」を合格とし、履修単位として認めます（秀：100～90点、優：90点未満～80点、良：80点未満～70点、可：70点未満～60点、不可：60点未満）。

「不可」となった科目については不合格とします。

授業科目によっては、「合」及び「否」で表記する場合があります、「合」を合格とし、「否」を不合格とします。

成績は、GP(各科目のグレードポイント)=(成績評点(数字)-55)÷10
(但し、0.5未満の場合は0.0とする。100点満点)に換算し、GPA (Σ(GP × 当該科目の単位数) ÷ 履修総単位数)を算出して、学生に提示します。

なお、成績評価が「合」「否」「認定」の科目はGP算定の対象としません。また、カリキュラム上の卒業要件科目でない科目もGP算定の対象としません。

3. 教育プログラムの点検と評価

工学部機械工学科の教育プログラムについての点検と評価を実施する工学部内部質保証委員会を設置します。当該委員会は、各学科の委員で構成されます。

教育プログラムの点検と評価として、年に一度科目GPAの平均値、授業アンケート、IR調査の結果等の分析による点検、その点検結果にもとづく評価を実施し、教育内容および教育方法の改善案を作成し改善を実施します。また、その点検・評価の実施状況については、全学教育内部質保証委員会に報告を行い、教育内容および教育方法の改善のPDCAサイクルの確認等を行います。

工学部電気電子工学科 教育の質保証ガイドライン

工学部電気電子工学科では、当該学部学科での教育プログラムにもとづいて修得した知識、技能ならびに態度の評価を以下の通り行います。また、教育プログラムの内容、授業の方法が適切に実行されているかを以下の通り検証します。

1. 評価の内容と方法

(内容) 講義科目では、知識とその応用力を主として評価します。実験・演習・実技科目では、知識とその応用力を評価します。卒業研究では、多面的思考力、技術者倫理、専門的知識と応用力、自発的学習能力と協調性、専門的課題の設定能力と自己解決能力、デザイン能力、コミュニケーション能力、チームワーク能力について評価します。また卒業研究発表において、説明、内容理解、視覚資料を評価します。

(方法) 知識とその応用力については筆記試験や課題レポート等により評価します。また科目によっては外部試験 (TOEIC、TOEFL 等) も評価に活用します。その他の能力は実習現場評価 (レポート等) で評価します。

2. 評価の基準

筆記試験を行える場合は、試験の点数を達成度とします。筆記試験を行えない場合は、達成度評価のための評価方法を用いて評価します。評価方法については可能な限り公表します。

科目の成績は、「秀」「優」「良」「可」「不可」で表記され、「秀」「優」「良」「可」を合格とし、履修単位として認めます(秀:100～90点、優:90点未満～80点、良:80点未満～70点、可:70点未満～60点、不可:60点未満)。

「不可」となった科目については不合格とします。

授業科目によっては、「合」及び「否」で表記する場合があります、「合」を合格とし、「否」を不合格とします。

成績は、 $GP(\text{各科目のグレードポイント}) = (\text{成績評点(数字)} - 55) \div 10$
(但し、0.5未満の場合は0.0とする。100点満点)に換算し、 $GPA = (\sum(GP \times \text{当該科目の単位数}) \div \text{履修総単位数})$ を算出して、学生に提示します。

なお、成績評価が「合」「否」「認定」の科目は GP 算定の対象としません。また、カリキュラム上の卒業要件科目でない科目も GP 算定の対象としません。

3. 教育プログラムの点検と評価

工学部電気電子工学科の教育プログラムについての点検と評価を実施する工学部内部質保証委員会を設置します。当該委員会は、各学科の委員で構成されます。

教育プログラムの点検と評価として、年に一度科目 GPA の平均値、授業アンケート、IR 調査の結果等の分析による点検、その点検結果にもとづく評価を実施し、教育内容および教育方法の改善案を作成し改善を実施します。また、その点検・評価の実施状況については、全学教育内部質保証委員会に報告を行い、教育内容および教育方法の改善の PDCA サイクルの確認等を行います。

工学部電子物質科学科 教育の質保証ガイドライン

工学部電子物質科学科では、当該学部学科での教育プログラムにもとづいて修得した知識、技能ならびに態度の評価を以下の通り行います。また、教育プログラムの内容、授業の方法が適切に実行されているかを以下の通り検証します。

1. 評価の内容と方法

(内容)

講義科目では、知識とその応用力を主として評価します。

実験・演習科目では、知識とその応用力を評価します。

卒業研究：卒業研究について、多面的思考力、技術者倫理、コミュニケーション能力、電子物理及び物質科学の知識と応用力、デザイン能力、自主的・継続的学習能力、計画・実行能力、チームワーク能力について評価します。また卒業研究発表において、内容、視覚資料、態度、質疑応答を評価します。

(方法)

知識とその応用力については筆記試験や課題レポート等により評価します。また科目によっては外部試験（TOEIC等）も評価に活用します。その他の能力は実習現場評価（レポート等）で評価します。

2. 評価の基準

筆記試験を行える場合は、試験の点数を達成度とします。筆記試験を行えない場合は、達成度評価のための評価方法を用いて評価します。評価方法については可能な限り公表します。

科目の成績は、「秀」「優」「良」「可」「不可」で表記され、「秀」「優」「良」「可」を合格とし、履修単位として認めます(秀:100～90点、優:90点未満～80点、良:80点未満～70点、可:70点未満～60点、不可:60点未満)。

「不可」となった科目については不合格とします。

授業科目によっては、「合」及び「否」で表記する場合があります、「合」を合格とし、「否」を不合格とします。

成績は、GP(各科目のグレードポイント)=(成績評点(数字)-55)÷10

(但し、0.5未満の場合は0.0とする。100点満点)に換算し、GPA ($\Sigma(GP \times$ 当該科目の単位数) \div 履修総単位数) を算出して、学生に提示します。

なお、成績評価が「合」「否」「認定」の科目はGP算定の対象としません。また、カリキュラム上の卒業要件科目でない科目もGP算定の対象としません。

3. 教育プログラムの点検と評価

工学部電子物質科学科の教育プログラムについての点検と評価を実施する工学部内部質保証委員会を設置します。当該委員会は、各学科の委員で構成されます。

教育プログラムの点検と評価として、年に一度科目GPAの平均値、授業アンケート、IR調査の結果等の分析による点検、その点検結果にもとづく評価を実施し、教育内容および教育方法の改善案を作成し改善を実施します。また、その点検・評価の実施状況については、全学教育内部質保証委員会に報告を行い、教育内容および教育方法の改善のPDCAサイクルの確認等を行います。

工学部化学バイオ工学科 教育の質保証ガイドライン

工学部化学バイオ工学科では、当該学部学科での教育プログラムにもとづいて修得した知識、技能ならびに態度の評価を以下の通り行います。また、教育プログラムの内容、授業の方法が適切に実行されているかを以下の通り検証します。

1. 評価の内容と方法

(内容)

講義科目では、知識とその応用力を主として評価します。

実験・演習・実技科目では、知識とその応用力を評価します。

卒業研究・論文科目：卒業研究について、文化や社会を含めて多面的に考える能力、社会や自然に与える影響を配慮する能力と技術者倫理、理系基礎科目と情報科学の能力、化学工学の知識とその応用能力、応用化学や生物工学の知識とその応用能力、デザイン能力、コミュニケーション能力、自主的かつ継続的に学習する能力、マネジメント能力、チームで協力して問題を解決する能力について評価します。また卒業研究発表において、内容、視覚資料、態度、質疑応答を評価します。

(方法)

知識とその応用力については筆記試験や課題レポート等により評価します。また科目によっては外部試験（TOEIC、TOEFL等）も評価に活用します。その他の能力は実習現場評価（レポート等）で評価します。

2. 評価の基準

筆記試験を行える場合は、試験の点数を達成度とします。筆記試験を行えない場合は、達成度評価のための評価方法を用いて評価します。評価方法については可能な限り公表します。

科目の成績は、「秀」「優」「良」「可」「不可」で表記され、「秀」「優」「良」

「可」を合格とし、履修単位として認定します（秀：100～90点、優：90点未満～80点、良：80点未満～70点、可：70点未満～60点、不可：60点未満）。

「不可」となった科目については不合格とします。

授業科目によっては、「合」及び「否」で表記する場合があります、「合」を合格とし、「否」を不合格とします。

成績は、GP(各科目のグレードポイント)=(成績評点(数字)-55)÷10
(但し、0.5未満の場合は0.0とする。100点満点)に換算し、GPA (Σ (GP × 当該科目の単位数) ÷ 履修総単位数)を算出して、受講生に提示します。

なお、成績評価が「合」「否」「認定」の科目はGP算定の対象としません。また、カリキュラム上の卒業要件科目でない科目もGP算定の対象としません。

3. 教育プログラムの点検と評価

工学部化学バイオ工学科の教育プログラムについての点検と評価を実施する工学部内部質保証委員会を設置します。当該委員会は、各学科の委員で構成されます。

教育プログラムの点検と評価として、年に一度科目GPAの平均値、授業アンケート、IR調査の結果等の分析による点検、その点検結果にもとづく評価を実施し、教育内容および教育方法の改善案を作成し改善を実施します。また、その点検・評価の実施状況については、全学教育内部質保証委員会に報告を行い、教育内容および教育方法の改善のPDCAサイクルの確認等を行います。

工学部数理システム工学科 教育の質保証ガイドライン

工学部数理システム工学科では、当該学部学科での教育プログラムにもとづいて修得した知識、技能ならびに態度の評価を以下の通り行います。また、教育プログラムの内容、授業の方法が適切に実行されているかを以下の通り検証します。

1. 評価の内容と方法

(内容)

講義科目では、知識とその応用力を主として評価します。

実験・演習・実技科目では、知識とその応用力を評価します。さらに、技能、態度、コミュニケーション能力についても評価します。

卒業研究・論文科目：卒業研究について、多面的思考力、技術者倫理、コミュニケーション能力、数学と自然科学の知識、数理システム工学の知識と応用力、デザイン能力、自主的・継続的学習能力、計画・実行能力について評価します。また卒業研究発表において、内容、視覚資料、態度、質疑応答を評価します。

(方法)

知識とその応用力については筆記試験や課題レポート等により評価します。また科目によっては外部試験（TOEIC、TOEFL等）も評価に活用します。その他の能力は実習現場評価（レポート等）で評価します。

2. 評価の基準

筆記試験を行える場合は、試験の点数を達成度とします。筆記試験を行えない場合は、達成度評価のための評価方法を用いて評価します。評価方法については可能な限り公表します。

科目の成績は、「秀」「優」「良」「可」「不可」で表記され、「秀」「優」「良」「可」を合格とし、履修単位として認めます(秀:100～90点、優:90点未満～80点、良:80点未満～70点、可:70点未満～60点、不可:60点未満)。

「不可」となった科目については不合格とします。

授業科目によっては、「合」及び「否」で表記する場合があります、「合」を合格

とし、「否」を不合格とします。

成績は、 $GP(\text{各科目のグレードポイント}) = (\text{成績評点(数字)} - 55) \div 10$
(但し、0.5未満の場合は0.0とする。100点満点)に換算し、 $GPA = (\sum(GP \times \text{当該科目の単位数}) \div \text{履修総単位数})$ を算出して、学生に提示します。

なお、成績評価が「合」「否」「認定」の科目はGP算定の対象としません。
また、カリキュラム上の卒業要件科目でない科目もGP算定の対象としません。

3. 教育プログラムの点検と評価

工学部数理システム工学科の教育プログラムについての点検と評価を実施する工学部内部質保証委員会を設置します。当該委員会は、各学科の委員で構成されます。

教育プログラムの点検と評価として、年に一度科目GPAの平均値、授業アンケート、IR調査の結果等の分析による点検、その点検結果にもとづく評価を実施し、教育内容および教育方法の改善案を作成し改善を実施します。また、その点検・評価の実施状況については、全学教育内部質保証委員会に報告を行い、教育内容および教育方法の改善のPDCAサイクルの確認等を行います。